

コ ー ス	法医学・法医学実習 (Forensic Medicine Lecture & Lab class)		
学年・期・単位	第4学年・後期・1.1単位	科目担当責任者	山田 良広 (社会歯科学講座法医学分野・教授)
オフィスアワー	毎週水曜日17:00~18:00 (第2研究棟4階法医学研究室)	メールアドレス	yamachan@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	<p>歯科医師の基礎的教養である法医学・歯科法医学の知識の習得を目標とし、具体的には脳死と心臓死の違いなど死の定義について自分の意見を持つこと、死因論の理解、歯科医師が身元不明死体の個人識別を行う際の方法と考え方、医療過誤等への理解と予防法など、歯科医師として日常の臨床以外で社会に貢献できることを理解する。実習では、実際に警察の鑑識で行われている作業を経験し、歯科医師として法医学実務に携わる可能性を理解し、生前歯科記録と死体の口腔内所見との比較による鑑定方法などを理解する。</p>		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 法医学総論	法医学と歯科法医学の定義を理解し、その目的が法医学では死因の究明であり、歯科法医学は個人識別であることを理解する。そのうえで大規模災害など身元不明死体が多数発生する場合には、法医学以上に歯科法医学が必要とされる理由を再認識する。検屍作業における歯科医師の役割、さらに歯科医師に関する法規について理解する。
2. 死の判定	法医解剖の対象となる異状死体を理解し、歯科医師として、脳死と心臓死のどちらをヒトの死とするか、自分なりに理解する。
3. 死体現象1	死体は通常環境では、乾燥から白骨化と変化する。この過程を早期・後期死体現象として理解する。またそれらの死体現象を生じない永久死体現象を理解する。
4. 死体現象2	死体現象は死後経過時間の推定に重要な情報であることを理解する。また、歯に見られる代表的な死体現象であるピンク歯についてその生成機序を理解する。
5. 死因論1	代表的な死因である窒息の概念と死体所見を理解する。
6. 死因論2	代表的な死因である損傷の概念と死体所見を理解する。
7. 個人識別	大規模災害児の身元確認と個人識別手段としての年齢推定・血液型・DNA 鑑定さらに舌癒着症を理解する。
8. 医事法制	医療事故が発生する状況を理解し、その予防と起きてしまった場合の対応について理解する。
9. ふり返り総合学習	法医学のユニットを理解する。

教科書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
A 法医学第6版 (補訂)	山本勝一 編	医歯薬出版
B スタンダード社会歯科学 第3版	宮武光吉、石井拓男、平田幸夫 ほか	学建書院

参考書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
歯の鑑定入門	神奈川県歯科医師会 編	医歯薬出版
スタンダード社会歯科学 第3版	宮武光吉、石井拓男、平田幸夫 ほか	学建書院
エッセンシャル法医学	高取健彦 編	医歯薬出版

評価法 (EV)
試験 (講義 (客観式) 60%、実習 (記述式) 30%)、レポート提出 (実習) (10%)、出席 (講義および実習、欠席の場合減点) による総合評価

授業計画〈講義〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	9/7	法医学総論	身元確認における歯科資料の重要性を説明できる。	A P9~28。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	A-3-5) 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-H-f
2		死の判定	1. 異状死体について説明できる。 2. 個体死について自分の意見を説明できる。 3. 脳死を説明できる。 4. 生活反応を説明できる。	A P303~310。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。		A-2-3) D-2-(1)-1) D-4-(2)-3) 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-V
3	9/14	死体現象1	1. 死体現象の意義を説明できる。 2. 早期死体現象を説明できる。 3. 後期(晩期)死体現象を説明できる。 4. 異常死体現象(永久死体)を説明できる。	A P121~122。事例をパワーポイントを使用して説明する。	山田良広、 長尾正崇 (招聘講師)	D-4-(4)-1) F-2-(5)-3) 必-14-A-a 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-D
4		死体現象2	1. 死体現象と死後経過時間推定の関係を説明できる。 2. 歯の死体現象を説明できる。 3. 後期(晩期)死体現象を説明できる。 4. 異常死体現象(永久死体)を説明できる。			F-2-(5)-3) 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-D
5	9/21	死因論1	1. 窒息の定義を説明できる。 2. 窒息と呼吸不全を説明できる。 3. 窒息死体の所見を説明できる。	A P221~227。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	F-2-(5)-2) 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-D-a
6		死因論2	1. 損傷の定義を説明できる。 2. 損傷の検査を説明できる。 3. 損傷と死因を説明できる。	A P221~227。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	F-2-(5)-2) 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-D-a
7	9/28	個人識別	大規模災害における歯科医師の役割を説明できる。	A P9~28。パワーポイントを使用して説明する。	山田良広、 山本勝一 (招聘講師)	B-2-(3)-2) 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-H-f
8				A P9~28。パワーポイントを使用して説明する。	山田良広、 山本勝一 (招聘講師)	B-2-(3)-2) 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-H-f
9	10/5	個人識別	個人識別におけるDNAの役割について説明できる。	A P183~186。事例をパワーポイントを使用して説明する。	大平 寛	D-1-(2)-2) 総Ⅰ-(Ⅰ)-1-B
10		個人識別	舌癒着症について説明できる。	A P221~227。事例をパワーポイントを使用して説明する。	山本伊佐夫	B-2-(2)-6) 総Ⅰ-(Ⅳ)-1-L
11	11/2	医事法制	歯科医療における事故の特異性を説明できる。	B P92~98。パワーポイントを使用して説明する。	山本龍生	A-5-(1)-1) 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-F
12			医療事故の起こりやすい状況を説明できる。			A-5-(2)-1) 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-F
13	12/21 3限 (補1)	ふり 返り 学習	法医学のユニットを理解する。	パワーポイント、板書により解説する。	山田良広	
14	4限 (補2)					

実習ユニット	一般目標 (GIO)
1. 個人識別1	法医学の基本的検査である血痕検査と毛髪検査を理解する。
2. 個人識別2	解離試験による血液型の検査法とその有用性を理解する。指紋の分類を理解する。
3. 個人識別3	混合凝集反応による血液型の検査法を理解する。唾液の分泌型、非分泌型の識別を理解する。
4. 個人識別4	唾液の有無の証明ができる原理を理解する。唾液からの喫煙者、非喫煙者の識別ができる原理を理解する。
5. 個人識別5	歯科医師の身元確認の実際をデンタルチャートの作成と皮膚紋理から理解する。

教科書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
C 法医学実習マニュアル	神奈川歯科大学法医学教室 編	教室扱い

参考書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
法医血清学的検査法マニュアル	岸 紘一郎 他編	金原出版
比較血液型学	鈴木正三 監修	裳華房

評価法 (EV)
試験 (講義 (客観式) 60%、実習 (記述式) 30%)、レポート提出 (実習) (10%)、出席 (講義および実習、欠席の場合減点) による総合評価

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	11/9	個人識別1	血痕検査、毛髪検査を実施できる。	C P2~12。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-1
2	総Ⅱ-(Ⅳ)-2-C					
3	11/16	個人識別2	1. 解離試験による血液型の検査ができる。 2. 指紋を分類し説明できる。	C P13~15。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-2
4	総Ⅱ-(Ⅳ)-2-C					
5	11/30	個人識別3	1. 混合凝集反応による血液型検査ができる。 2. 唾液の分泌型、非分泌型の識別ができる。	C P16~21。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-3
6						
7	12/7	個人識別4	1. 唾液の有無の証明ができる。 2. 唾液からの喫煙者、非喫煙者の識別ができる。	C P22~26。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-4
8	総Ⅱ-(Ⅳ)-16-F					
9	12/14	個人識別5	1. 充填物の識別、紫外線検査による天然歯と人工歯の識別ができる。 2. 口唇紋の分類ができる。	C P27~34、P51~54。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	F-1-(2)-6
10	総Ⅱ-(Ⅳ)-5-C 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-H-f					